

岩手より『かたくりの会』の活動

千葉 武／ちばたけし

がん患者・その家族の会『かたくりの会』事務局

私の所属するがん患者・その家族の会『かたくりの会』(http://www.gsic.jp/society/st_02/re/09_01.html)を紹介します。

設立の動機

平成4年(1992)5月、地元新聞岩手日報の紙上に毎週1回5週にわたって、末期の肺がんに立ち向かう42歳の主婦の取材記事が掲載されました。

当時は“がん=死”の時代であり、がんの病名を口にすること自体タブー視される時代でした。今でこそ、がん告知は当たり前ですが、まだ告知もできない時代でした。この記事は県内で大変な反響を呼び、がん患者ご本人、また家族の方々から手紙や電話で、さまざまな意見が記者のもとに寄せられました。その内容がさらに紙上に掲載され、がん医療現場にまで届く大きな反響がありました。その後、NHKがその主婦の方を取材し全国放映されたため、県内のみならず全国の多くの方々の反応があり影響を与えることとなりました。

新聞紙上での反応があまりにも大きく、その主婦の方が末期がんにもかかわらず、新聞紙上から「がんで悩んでいる方、家族の方が集まって話しあいましょう」と呼びかけられた結果、同年7月、当会がスタートしたのです。

名称の起こり

当会の名称は『かたくりの会』です。

会の愛称をどうするかを話し

あった結果、『かたくりの花』のイメージから『かたくりの会』となりました。かたくりの花は、春一番に可憐な花を咲かせ、私たちに春の訪れを告げます。一見か弱く、芯もなく、いつでも倒れそうなかたくりの花ですが、厳しい寒さにも負けずに花を咲かせるこの花は、実は芯が強く、雪の中から芽を出して花を咲かせます。がん患者ががんに負けず、前向きに生き抜く姿をイメージしたのです。

会のモットー

会のモットーは、「がんを悔んではいけない。悔むより、今を明日をよりよく生きることを考えよう。前向きに生きよう」です。

会則の目的には「がん患者とその家族が励ましあい、支えあって、よりよく生きること」を謳っています。

「ともに語らい、よりよく生きる」

「感謝の気持で、今あることを喜ぶ」

「病める人も、より病める人に手をさしのべよう」

私たちは、この3項目を活動の主題として、活動の輪を拡げたいと考えています。

当会から芽生えた種

これまで、かたくりの会の活動から芽生えた仲間たちを紹介しましょう。

①平成12年(2000)、当会の活動の一つとしてホスピス勉強会を組織し、ホスピスケアについて学びました。岩手県にはホスピス施

◎このシリーズでは、がん患者のピアサポートの現状を、おもに患者会において実践されている方がたに、患者の視点から紹介していただきます。

シリーズコーディネーター：

寺田佐代子／

NPO 法人びあサポートわかば会

堤 寛／

藤田保健衛生大学医学部病理学

設が皆無だったので、行政、マスコミ等への対外的な活動が必至の状況でした。しかし、「自分ががん患者であることを知られたくない」といった意見も強く、会員による活動には限界がありました。そこで、平成14年(2002)12月、ホスピス勉強会のメンバーが中心となって、『岩手にホスピス設置を願う会』を設立。現在は『岩手ホスピスの会』と名称を変更し、会員1,025名(平成23年12月現在)と発展・活動中です。

②平成15年(2003)2月、久慈市の会員が中心となり、『生活習慣病やがん患者・家族の会 久慈かたくりの会』を設立。

③平成17年(2005)1月、元当会の会員が女性のみ患者会『らんきゅう・卵宮』を立ちあげ、宮古市で活動中。

④平成17年3月、宮古在住の会員が中心となり、『がん患者・家族の会 かたくりの会宮古支部』を設立。

⑤平成17年6月、水沢在住の会員が中心となり、『がん患者・家族の会 かたくりの会水沢支部』を設立。現在、『がん患者・家族の会 奥州かたくりの会』として、独立組織で活動中。

⑥平成17年9月、花巻地域フォーラム開催を契機に『がんを語る会』を組織。現在、『さわらびの会』として活動中。

⑦NHKの放映を観て当会を訪問した方が、福島市に患者会『ひいらぎの会』を組織し、現在、全国に会員を有しつつ活動中です。

⑧平成23年(2011)、聖路加国

際病院の細谷亮太先生を招き、小児がんの講演と映画の集いを開催しましたが、そこに参加された小児患者の母親が新しい組織を立ちあげ、会合をもっています。

かたくりの会の蒔いた種が広く大きく羽ばたき、各地に根づいて実を結んでいます。

主な講演会・フォーラム

当会は長らく、語らいを中心とした内部活動でしたが、10周年記念として立川談志師匠の『がんと笑い』の講演を開催後、対外的活動も進めてきました。

10周年以降のおもなフォーラム・講演会は次の通りです。

①平成16年(2004)10月31日、ナグモクリニックの南雲吉則先生による講演会『インフォームドコンセント・セカンドオピニオンとは』(岩手教育会館大ホール)

②平成16年11月29日、作家・評論家の柳田邦男氏による講演会『いのち耀く生き方と医療』(岩手県医師会館大ホール)

③平成17年(2005)11月13日、絵本作家の伊勢英子氏による講演会『家族—それからの家族—』(岩手県医師会館大ホール)

④平成20年(2008)10月11日、リンパ浮腫フォーラム、後藤学院の佐藤佳代子先生(盛岡市勤労者

福祉会館)

⑤平成21年(2009)12月5日、リンパ浮腫フォーラム、後藤学院の佐藤佳代子先生(岩手県医師会館大ホール)

⑥平成22年(2010)9月26日、ジュノ銀座産院・銀座健康院院長の対馬ルリ子先生による講演会『子宮頸がんの軽減をもとめて』(サンセール盛岡)

⑦平成23年(2011)11月19日、聖路加国際病院副院長の細谷亮太先生による『映画と講演の集い』(岩手大学北桐ホール)

上記7事業は、岩手県長寿社会振興財団からの助成金を交付いただいたの開催でした。県民の方々とともに、一つひとつのテーマをともに学び、啓発しあい、親交をはかることができました。これは、患者会だからこそできる内容だといえるでしょう。

記念誌の発刊

当会は、5年ごとの節目節目(5年目、10年目、15年目、20年目)に記念誌を計4回発刊し、県内の医療機関、行政機関等に贈呈してきました。

また、A5版4~6ページの『かたくり通信』を毎月発行し、会員同士の情報交換の場としています。

これからの活動に向けて

現在の私たちの活動内容は次の通りです。

①毎月の定例集会

②「奥羽自然観察会」の定期開催。春はお花見、カタクリ探訪(カタクリの花の群生地に出かけ、春の花を鑑賞し、温泉を楽しむ)。秋には紅葉の観賞(散策と湯治、八幡平などで)

③歌う会(春と秋)

④リンパ浮腫がんサロン(リンパ浮腫治療の啓発活動)

⑤その他の勉強会、フォーラムの開催

現在、上記事業を実践していますが、活動者の高齢化とマンパワー不足で実施は正直大変です。

会員や入会者の減少を背景に、次世代の活動者が育っていない事情もあります。資金の問題も大きいのしかかります。フォーラム・講演会の開催は助成金に頼るしかありません。このような問題をどう解決していくのが、活動継続のポイントと考えています。

患者会活動への期待は年々高まってきています。第2次の岩手県がん対策の実行にあたっては、患者会の参加も求められています。

私は一つひとつの活動の実績をつくりつつ、地道に寄与していこうと考えています。

* * *